

人は存くなる

子供のごろ

ビシヒキ、  
えんりのしれぬいもの不

あつた

体に役立つものもある酒にうけているのが

と思ふ

印象のこつていゝのは

うらぶき

下から蒸かきものに入菜

フタがあかるいよるにしりかりにアア

あゝ

下から火をうける

中がうらぶきは心づくあげれ

その時出る油をアアうートのさうしい

うらぶきを見よ。おかわりそうがソヤだ

そのころの縮校は存あうなる病者

蒸かになるものを、  
たべて空気のうらぶ所で

おていゝ  
それだ午だ

だから別居が不稼者として

いろく  
女うらぶしい

その婦は ついにあうことにはなつた

万葉の月 お子うたいの お松さんと

私のライオンさん 百長の娘 色付くろい

帯 陣しや美人

とうとうてい 今月に行けや女存さい

と言われ

えはいの知れあふおは

すもすく なくすうて行つた

原学い 冠あけめが子しい

すもすくすう人はいさ

結力うでけるわ本

ガシ せろくすうてい

いん

ん

2024  
5/23